阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

資料室ニュース

Vol.53
2014年3月
●発行●

特集 いま、撮影する「阪神・淡路大震災」

ー「震災を追体験する」方法として、定点観測写真を考えるー

2013年12月26日より、2014年3月2日にかけて、人と防災未来センター西館2階「防災未来ギャラリー」にて企画展「いま、撮影する『阪神・淡路大震災』ー『震災を追体験する』方法として、定点観測写真を考える」を行いました。今号では本企画展と記念イベントについて、その内容は勿論のこと、企画展ができるまで、そして、企画展のその後の展開も含めてレポートします。(震災資料専門員 高森順子)

企画展 「いま、撮影する『阪神・淡路大震災』」に込めた想い ー震災を伝える方法を考える場に

阪神・淡路大震災から19年目を迎えました。私たち、人と防災未来センター資料室はこれまで、震災と、その後の復旧・復興にまつわるあらゆる資料の収集・整理・保存を行ってきました。そして、企画展示や、資料を必要とする方々に利用していただくことを通して、資料の活用を行ってきました。

2011年3月11日、東日本大震災の発生とともに、ボランティアへ向かう市民のみなさんから「阪神・淡路大震災の定点観測写真を貸してほしい」との依頼が数多く寄せられました。「いまは何の言葉をかけることもできない。定点観測写真なら、見るだけで、いつか復興するんだということを感じてもらえるのではないか」。ある方は、貸出の理由をそのように述べていました。しかし、当センターにある約18万点もの資料のうち、定点観測写真はわずかしかなく、希望にそえない状況が続きました。それから1年あまりが経過した2013年春に、ある一人の女性がまとめた、阪神・淡路大震災の定点観測写真集の存在を知りました。

本企画展では、故・大仁節子さんの写真集『翔け神戸』に収められた、阪神・淡路大震災の発生当時と約3年後の同場所の定点観測写真を展示しました。今回は、そのなかから、神戸の中心地である三宮・元町のある神戸市中央区と、大仁さんの住まいのあった神戸市東灘区森南町にスポットを当て、彼女が撮影した計49か所の写真を観ていただきました。

さらに、立命館大学「減災×学びプロジェクト」の山口洋典先生、ならびに学生のみなさんと一緒に行った「定点観測撮影会」で新たに撮影した、現在の写真も合わせて展示しました。以上のように、本企画展では、大仁さんが残した震災直後と約3年後の49か所の写真と、新たに場所を特定し撮影した43か所をご覧いただく形となりました。

震災における定点観測写真は、震災時から、復旧・復興へ向かうまちの変化を記録するためのひとつの方法です。しかし、今回の展示にあたり、学生のみなさんと写真の場所を探し、新たに撮影することを繰り返すなかで、かつての大仁さんと同じように歩き、同じようにシャッターを押すという行為そのものに、「震災を体験した人々のあの日からこれまでの思いを感じ、震災を追体験していく」という、震災を伝える力があるのではないかということを感じました。つまり、定点観測写真は、まちのハード面の変化を捉えることができるだけでなく、撮影という行為を通じて、震災を経験した人々の、言葉にならない思いや心の変化を感じる手だてにもなりうるということです。

「定点観測写真を撮影する」という活動は、震災から年月が経ていく神戸で、震災の記憶を後世に伝えていくための方法として、大きな可能性があることに気づかされました。この企画展を通じて、大仁節子さんが行った定点観測写真の撮影という活動と、残された写真に改めて光を当てるとともに、震災から19年を迎える神戸がどのような変遷をたどったのかを振り返り、震災を伝える様々な方法を議論するきっかけとなれば幸いです。

定点観測撮影のバトンを繋ぐ

ー企画展「いま、撮影する『阪神・淡路大震災』」ができるまでー

本企画展では、大仁節子さんが撮影した震災当時と震災から約3年後の写真の「いま」を撮影し、展示しました。そこで、神戸の中心地である三宮、元町界隈のある神戸市中央区と、大仁さんのお住まいのあった神戸市東灘区森南町に焦点を当て、写真集に収められている49地点の現在を撮影するため、2013年8月5日、26日の2日間、定点観測撮影会を行いました。定点観測撮影会は、当センター資料室と、立命館大学サービスラーニングセンターの「減災×学びプロジェクト」のみなさんが共同で行い、大仁さんの足跡をたどりました。

撮影会ではまず、震災当時の地図と、現在の地図を見比べながら、写真が撮影された場所をおおまかに特定することからはじまりました。写真に写っている看板や印象的な建物から推測し、撮影されたであろう場所を皆で推理していきます。そしてようやく、実際に撮影となります。

撮影に入ってからも、試行錯誤は続きます。「同じ場所を同じ高さ、同じ角度で撮影する」という定点観測写真の撮影は、大仁さんがかつて立った場所を特定し、かつてとったであろうカメラの構え方を理解しなければなりません。そのため、シャッターを切っては、大仁さんの写真と見比べることを繰り返しました。

今回の撮影会の参加者は、誰も大仁さんに会ったことはありません。また、学生のみなさんのほとんどは、阪神・淡路大震災を経験していません。しかし、撮影を重ねるうちに、参加した学生のみなさんから、大仁さんの背格好や、撮影しそうなポイント、そして、それらから想像する、大仁さんが経験した阪神・淡路大震災について、言葉が交わされていきました。この経験を通じて、被災したひとりの女性がかつて撮影した場に立ち、同じ体勢となり、シャッターを切るという作業が、「震災を追体験する」ともいえるような意味を持つのではないかと気づかされました。

▲写真に写った看板や目印となる建物を頼りに、95年と現在の地図を参照しながら、撮影ポイントをプロットしていきます。

▲撮影では、写真に写った風景のなかから、目安となる建物を決め、撮影された場所を探っていきます。納得のいく撮影ができるまで、試し撮りが続きます。

▲2日間で新たに撮影された43カ所の写真は、その後、学生の皆さんによってキャプションがつけられました。

参加した学生たちの声

大仁さんの写真の場所を同定し、今の写真を撮っていく中で、感じることがありました。それは、大仁さんの姿です。まず172cmの私が普通にカメラを構えると、視点が高すぎるのです。脇辺りにカメラを構えるという不思議な撮り方をしながらも、当時大仁さんが撮影されていた様子が浮かぶようでした。それはとても不思議な経験でした。定点観測を行った1日は大仁さんを感じる1日でした。18年前の写真が、大仁さんの思いが、今に繋がっているということにすごさを感じます。私たちの世代以降は、阪神大震災を知らない世代です。でも、経験された方々の思いは受け継がれている、そう感じます。そして、これからも受け継いでいかないといけません。この定点観測の写真を通して、見てくださる方に大仁さんの思いが伝わればと強く思います。

森亮太

神戸の街並みは、全然昔と変わっていないところがあれば、全く様変わりしてしまったところもあり、次第に「震災は本当に凄かったんだな。」と実感しました。数ある撮影場所の中で僕が一番好きなのは、三宮のアーケード街にある「フタバ園」という花屋の写真です。19年間ずっと営業しているところにも凄いと思いますが、それ以上に時代に合わせてオシャレな外観になっていたり、名前も「fleur futabaen」になっていたりするところが、時代の移り変わりの中で頑張っているようで応援したくなります。震災の影響や復興した姿を実際に目で見て感じられたこと、そして神戸の街の色んなところを見て回れたことが本当に楽しくて、参加させてもらって良かったです。

山本晃寛

神戸市中央区雲井通　神戸新聞会館

平成7年2月11日
神戸新聞社のビルが全壊した。JR三ノ宮駅前に代替バスの乗り場があった。
（大仁節子）

平成11年5月12日
神戸新聞社は神戸市中央区東川崎町に移転。跡地は駐車場になっている。
（大仁節子）

平成25年8月5日
新聞会館跡地には2006年に複合商業施設ミント神戸が建設された。
（立命館大学 減災×学びプロジェクト）

神戸市東灘区森南町　店舗、住宅

平成7年2月14日
2階の重さに1階が耐えられなかったような壊れ方をした。（大仁節子）

平成11年11月6日
それぞれの店舗が立派に復興し、営業されている。（大仁節子）

平成25年8月26日
道路はアスファルトからタイル舗装へと変わった。
（立命館大学 減災×学びプロジェクト）

企画展関連イベント

震災を伝える方法を考える
ー大槌・仙台・神戸 定点観測写真ミーティングー

2014年2月1日、人と防災未来センター西館１階ガイダンスルーム2にて、企画展関連イベント「震災を伝える方法を考えるー大槌・仙台・神戸 定点観測写真ミーティング」を行いました。このイベントでは、本企画展で撮影を行った、当センター資料室と「立命館大学減災×学びプロジェクト」が撮影までのプロセスや撮影時に感じたことなどを報告するとともに、同じ「定点観測写真の撮影」という活動を通して、震災の記憶を伝える試みをしている2つのグループをお迎えし、活動の意義を共有しました。

1つ目のグループは、神戸大学の学生のみなさんが、岩手県大槌町の地元高校生とともに行っている「大槌町定点観測プロジェクト」です。彼らは、東京大学が所有していた被災前の町の写真をもとに、定点観測を行っています。2つ目のグループは、宮城県仙台市を中心に、定点観測撮影をし、その成果を展示や写真集を通して発信しているNPO法人20世紀アーカイブ仙台です。同団体は、ツイッターを通じて集まった市民の写真をもとに、定点観測をしています。

「定点観測写真」という同じ方法で、震災と向き合っている３つの活動は、撮影場所、元となる写真、撮影者など、その条件は異なる点が多いですが、意見を交わすなかで、共通の思いや感覚があることもわかりました。立命館大学の山口洋典准教授は「神戸の定点観測撮影では、撮影中に偶然立ち会った地元の人々と会話を交わすなかで、互いに1月17日を見つめ直す機会になった」とコメントし、神戸大学の川上翔さんは「撮影中、地元の高校生が同級生といままで話していなかった地域の歴史について、会話を交わしていた」とコメント。20世紀アーカイブ仙台の佐藤正実副理事長は「定点観測撮影を通じて、地元のガイドの方と震災時と震災前の話を伺った」とコメントしました。定点観測撮影という活動を通じて、様々な言葉のやりとりが交わされていくことの大切さを来場者のみなさんとともに確認することができた時間となりました。

▲各グループごとに写真について解説

▲ 来場者とともに「震災の伝え方」についてディスカッション

せんだいメディアテーク「定めた点から観て測る展」に出張展示中です

仙台の中心地にある、映像メディアや美術に関する公共施設「せんだいメディアテーク」では、2014年2月28日より「定めた点から観て測る」展を開催しています。メディアテークではこれまで、東日本大震災に関する市民の記録支援と、記録をもとにした語りの場の提供を、メディアテーク内の震災記録に関するセクション「3がつ11にちをわすれないためにセンター」が中心となって行っています。この展示では、定点観測を通じて東日本大震災の記録を行ってきた4団体の写真が展示されています。当センターの企画展「いま、撮影する『阪神・淡路大震災』」も同時開催しております。今後も、阪神と東北の記録を通じた交流を深めていきたいと思います。

「定めた展から観て測る」展 出展団体

NPO法人20世紀アーカイブ仙台
撮影地:岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市、女川町、石巻市、仙台市若林区、名取市
NPO法人 都市デザインワークス
撮影地:宮城県仙台市宮城野区南蒲生地区
一般社団法人ReRoots
撮影地:宮城県仙台市若林区荒浜など
NPO法人 創る村
撮影地:宮城県東松島市新東名など

▲せんだいメディアテーク7Fラウンジにて
4月13日(日)まで開催中

3がつ11にちをわすれないためにセンター

3がつ11にちをわすれないためにセンター
http://recorder311.smt.jp/

新着資料紹介

仙台国際交流協会

『多言語防災ビデオ 地震！その時どうする？ 第2版』

仙台国際交流協会から、同会が企画・制作したDVD『多言語防災ビデオ地震！その時どうする？ 第2版』を寄贈していただきました。

このDVDは、2012年度に制作された第1版(日本語、中国語、英語、韓国語)に字幕が付けられたほか、新たに8言語(インドネシア語、台湾語、タガログ語、ネパール語、ベトナム語、ベンガル語、ポルトガル語、モンゴル語)が追加されたものです。地震についての知識や経験の少ない外国人住民を主な対象として、地震や津波に対する備えや地震が発生した場合の対応について、わかりやすくまとめられています。そしてこのDVDは、仙台市に在住する外国人市民の方々と協働で制作されています。

阪神・淡路大震災のときを振り返ると、外国人住民は緊急時に言葉が通じず、必要不可欠な情報を得るのに困難を抱えました。そのなかで、神戸市・長田ではコミュニティFM放送局「FMわぃわぃ」が中心となって、多言語による情報発信が行われました。それをきっかけに現在でも多言語放送が続けられています。

災害「後」の活動から日常的な活動へ―。今回紹介した『多言語防災ビデオ』は、様々なルーツをもつ人々が、それぞれの母語を通じて災害への備えを知ることに役立つものと言えるでしょう。

DVDに収録された内容は、インターネットでも視聴できます。動画共有サイトyoutube内にある「SIRAチャンネル」から。
http://www.youtube.com/SIRAsendai/

○ 資料室には次のような関連資料も開架されています

・『世界のことばで長田から FMわぃわぃ5年のあゆみ』(エフエムわぃわぃ、2001年)
・『阪神淡路大震災 被災ベトナム人救援ニュース ベトナム語版』(被災ベトナム人救援連絡会議、1995年)

関連資料はほかにもありますので、お気軽に資料室スタッフまでお問い合わせください。

資料室は無料でご利用いただけます

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター 資料室(西館5階)

〒651−0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1−5−2
TEL.078−262−5058 FAX.078−262−5062
HPアドレス http://www.dri.ne.jp
開室時間 9:30〜17:30(展示施設とは時間が異なりますので、ご注意下さい)
閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 12月29日〜1月3日